

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：23804

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370362

研究課題名(和文) 現代フランス語アルジェリア文学の諸相 女性・移民・戦争からの考察と分析

研究課題名(英文) Study of Contemporary Algerian Literature in French : analysis from the viewpoint of women, immigration, and war

研究代表者

石川 清子 (ISHIKAWA, Kiyoko)

静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授

研究者番号：30329528

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：アルジェリアに出自をもつ作家のフランス語による文学作品を「女性」「移民」「戦争」というキーワードのもとに読解、分析した。1980年以降の作品、とりわけアシア・ジェバル、レイラ・セバル、ヤミナ・ベンギギなど、戦後のアルジェリア移民と関係が深い女性作家たちの作品を対象とし、マグレブ仏語文学のなかでの当該文学の特異性、アルジェリアとフランスの歴史的・文化的相関関係、「正史」の周縁に置かれた記憶の記録化の諸相を読み解き、論文発表や口頭発表を行なった。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to examine and analyze literary works in French of Algerian writers, especially those of female writers after 1980, from the viewpoint of "women" "immigration" and "wars". The writings of Assia Djebar, Leila Sebbar, and Yamina Benguigui are our central objects of this research. We inquired into the characteristic features of this literature among what is called the Maghrebi literature, the complex interrelation between Algeria and France at colonial and postcolonial eras, and authors' attempt of tracing and keeping people's collective memory in their writings. We published related articles and read papers in domestic and international conferences.

研究分野：フランス語圏文学

キーワード：アルジェリア マグレブ アシア・ジェバル ヤミナ・ベンギギ レイラ・セバル パリ 移民 郊外

1. 研究開始当初の背景

近年、フランス文学の枠組が「フランス語圏文学」として捉え直され、フランス語を母語としない亡命者や旧植民地出身の作家、さらにはその次世代作家がフランス語の文学の層を豊かにしているのは紛れもない。マグレブを出自とする作家の作品群はそのなかの重要な発信源の一つであり、なかでもアルジェリアは最大の植民地としてフランスと長期にわたり深く関わりをもち、仏語を執筆言語とする作家は数多い。

1950年代の第一期から実験的創作に挑戦するアルジェリア戦争前後の第二期を経て、女性作家の旺盛な活躍、80年代に開花するフランス移民第二世代の「プール」文学、90年代はテロと内戦が数多くの緊急の書を発信させた。題材や文体、書き手のバックグラウンドは様々であり、作家数は確実に増えている。90年代以降、多くの作家が執筆上の安全を求め活動拠点をフランスに移すが、言語統制の自由化を見た本国アルジェリアでも旺盛な出版活動がなされている。アルジェリアをモロッコ、チュニジアと峻別する最大の要素はアルジェリア戦争(1954-1962)であり、現在のアルジェリア文学もなおその余韻を留めている。80年代から登場するプールの作家、本国出身の新世代の作家は50、60年代のこれら書かれなかった父世代の記憶、表に出ない母たちの歴史=物語も文字として作品に留めようとしている。また90年代の内戦も「第二の戦争」として多くの作家にペンを執らせている。

以上、これまでの研究から、「女性」「移民」「戦争」を軸に80年代以降のアルジェリア伝説小説の総合的読解を着想した。

2. 研究の目的

本研究はマグレブ(北アフリカ諸国)文学のなかでも最も層が厚く多様な書き手に支えられるアルジェリアのフランス語文学、とりわけ現代小説作品を、「女性」「移民」「戦争」という視点から具体的かつ総合的に考察することを目的とする。イスラーム圏固有のジェンダーの様相、在仏移民労働者と次世代以降、そしてアルジェリア戦争と90年代の内戦など、アルジェリア伝説文学の大半が上記のテーマを含み、この文学を豊饒なものにしてきた。

これらテーマ体系のもとに1980年代以降の主要作品を分析して、

- (1) 一括りにされる傾向にあるマグレブ伝説文学のなかのアルジェリア文学の特異性、
- (2) アルジェリア/フランスの緊密かつ複雑に入り組んだ歴史的・文化的相関関係、
- (3) 「正史」の周縁に置かれた記憶の記録化、という文学的営為の諸相を読み解く。

3. 研究の方法

「女性」「移民」「戦争」のテーマに沿う1980年以降、現在までのアルジェリア伝説小説の主要作品群の分析を軸に、以下の作業を行う。

- (1) 作品読解と比較研究を主とする論文執筆
- (2) 当該期間に刊行された作品と関連研究(書籍・論文・書評)の資料収集及び総合的書誌作成
- (3) 国内におけるマグレブ文学研究会の充実化(例会での発表、ワークショップやシンポジウムの企画と実現)
- (4) 海外研究者との連携による国際的ネットワークの形成(国際会議での発表とシンポジウムや論集の企画)
- (5) アルジェリアやフランスでの現地調査(作家インタビューや聞き取り、作品背景の地をたどる)
- (6) 翻訳作品の検討

4. 研究成果

以下、「3. 研究の方法」で分類した(1)~(6)について具体的な成果を述べる。

(1) 作品読解と比較研究を主とする論文執筆: 2015年に急逝したアジア・ジェバールの第一小説、パリにおけるマグレブ系移民に関わる通史的な文学・芸術的表象、戦後マグレブ移民の全体像を検証したヤミナ・ベンギギについて論文を発表した。本研究で調査、探究したことは、ほぼこれらの論考で述べることができた。詳細は以下の5.[雑誌論文]のとおり。ジェバールの死とアルジェリア文学史、国際シンポジウムの報告なども含む。「女性」「移民」「戦争」という自らが設定したテーマを十分検討できたと判断する。ジェバール第一作とアルジェリア戦争、アルジェリア戦争とパリなど、「戦争」というテーマは一見確認しづらいが、マグレブ伝説作品において、大きな背景としてアルジェリア戦争(1954-1962)は今後とも意識すべき要素である。

(2) 当該期間に刊行された作品と関連研究(書籍・論文・書評)の資料収集及び総合的書誌作成: 書誌作成には至らなかったが、80年以降の伝説アルジェリア文学の書籍、特に女性作家の書籍を入手した(マイッサ・ベイ、レイラ・マルアーヌ、レイラ・セバル、ニナ・プーライ、移民第二世代伝説女性作家)。また、これに関連する研究(単行本、論文等)をヤミナ・ベンギギを中心に収集した。フランス国立図書館、サント・ジュヌビエーヴ図書館、勤務校図書館の文献複写サービス、図書借受制度を利用した。また、フランス国立図書館のオンライン複写サービスも利用し、これは貴重なサービスである。オンライン上の公開論文など、情報収集の選択幅が大きく

なったこととその選択のむずかしさを実感する。関連定期刊行物（例：*Expressions maghrébines, International Journal of Francophone Studies*）のバックナンバー収集は予算的に実現できなかったため別の機会に行ないたい。パリ、アラブ世界研究所がリニューアルのため閉館しており、雑誌バックナンバー閲覧ができなかった。

(3) 国内におけるマグレブ文学研究会の充実化：マグレブ文学研究会の例会を年2回のペースで開催し、発表も行なった（5. [学会発表] 参照）。これ以外に、各研究会やシンポジウムで発表した。2016年3月19日の京都大学、2016年10月7日の立命館大学のそれぞれのシンポジウムは両者とも、現在進行形の中東から欧州への移民・難民の流れを文学の文脈から考えるもので、フランスからの考察と現状を報告し、自分の研究をアウトプットできたことで良い貢献ができた。隣接しつつも交流の度合いがうすい他国語文学研究者からも多くの知見を得た。その他、学内の公開講座担当分も本研究の内容を紹介することができた。また、次項と重複するが、マグレブ文学研究会が一昨年来計画していたアルジェリア文学に特化した国際シンポジウムを2016年3月25日、26日に開催した。研究会の成果としてあげておく。

(4) 海外研究者との連携による国際的ネットワークの形成：国外での口頭発表が3件ある。うち、2015年6月13日の発表は、長年参加してきた Cercle des amis d'Assia Djebbar 主催のシンポジウムで、ジェバールと翻訳を主題にした会である。日本語の翻訳者として翻訳作業を紹介した。研究会としての Cercle のみならず、他国のジェバール翻訳者、研究者と面識を得て情報交換ができた機会となった。このシンポジウムの報告をオディール・カズナーヴが *PMLA* ジェバール追悼特集に掲載し、石川の発表について言及している：Odile CAZENAVE, "Retracing AssiaDjebbar's Steps", *PMLA* 131.1(2016), 140-146。また、この日の発表原稿をもとにして、さらに編集を重ねた論集が2017年中に刊行予定である。アジア・ジェバール研究のみならず、文学作品の翻訳が遭遇する諸問題を検討する論集になると期待する。遡って2014年5月4日から6日にかけて、ジェバール関連国際シンポジウムがアルジェリアのオラン大学で行なわれて発表した。マグレブ文学の代表的研究者が多数集まり、大いに刺激を受けるとともに、アルジェリア国内でのジェバール評価も認識できた。当日の発表は論考集として刊行された。また、2016年5月28日には、学会 CIEF(国際フランス語圏研究会議)の世界大会に初めて参加し、発表した。フランス語圏の文学・教育研究をメインとする学会であり、フランス文学の支流としてフランス語圏文学を捉えていない学会のあり方が興味深かった。アルジェリアを含

むマグレブ地域伝語文学が伝語圏文学のなかでどういう位置を占めるか、また世界規模でどんな研究が進行中か実感できる大会であった。

(5) アルジェリアやフランスでの現地調査：2014年のシンポ参加以降、昨今の世界情勢からアルジェリア方面へ赴くのがなかなか容易ではなく、本研究期間中のアルジェリア現地調査は行なわなかった。d) で述べたシンポジウム等での発表以外に夏期休暇中に図書館と書店での資料収集を主に、パリで調査を行なった。とりわけ、a) で言及した論考の背景となるバルベス、グット・ドールに足を運び、作品の舞台となる地区を詳細に調査した。

(6) 翻訳作品の検討：マグレブ文学研究会として議論し、マグレブ文学翻訳コレクション刊行が水声社より開始された。第一期として十数作品。石川はヤミナ・ベンギギ『移民の記憶』、レイラ・セバール『ファティマ、辻公園のアルジェリア女たち』、アジア・ジェバール『アルジェリアの白』の三作品翻訳を予定。2017年以降の刊行をめざす。

その他：(6)と関連させて、マグレブ文学研究会主催で、アルジェリア文学国際シンポジウムを開催したことは、これまでの研究成果の結実として付記しておく。翻訳コレクションと並行して、国際シンポジウムを研究会で企画し、アルジェリア、フランス、韓国から研究者を招聘し、講演と発表を行なった。ムルド・フェラウン、アジア・ジェバールを中心に現代アルジェリア文学の専門性の高い集まりだったが大学外、文学専門以外の聴衆が来場し、文学領域にとどまらず広く戸口を開放すると同時に、視点を深く狭く定め、そこから広く発信することの重要性を認識した。さらに、韓国でのマグレブ文学研究の質の高さを認識できた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

石川清子「アルジェリア作家、アジア・ジェバールの死」、地中海学会月報、査読有、388号、2016、6。

石川清子「ヤミナ・ベンギギの映像作品とテキスト -- フランスにおけるマグレブ移民の母たちと娘たち」静岡文化芸術大学研究紀要、査読無、16巻、2016、1-8。

石川清子「アルジェリアにおける二つのジェバール国際シンポジウム」査読無、ワークワーク通信(日本マグレブ文学研究会ニュースレター)、1号、2015、3-7。

石川清子「記憶としてのグット・ドール、バルベス -- 戦後マグレブ移民とパリ」静岡文化芸術大学研究紀要、査読無、15巻、2015、9-22。

Kiyoko ISHIKAWA, « *La Soif* d'Assia Djébar : la naissance d'une écrivaine et le jeu romanesque », *Revue LADICIL*, 査読有, No 1, décembre 2014, 52-64.

〔学会発表〕(計 11 件)

Amel CHAOUATI, Kiyoko ISHIKAWA « Assia Djébar. Une œuvre universelle » (通訳、コメンテーター) Colloque international : La Littérature algérienne, mais pourquoi ? 2017年3月25日、東京大学本郷キャンパス
石川清子「エスニックシティ・パリ」SUAC 公開講座：「国際文化都市パリ」, 2016年10月29日、静岡文化芸術大学
栗原秀之、石川清子、山根美奈、石田智恵、土肥秀之「越境する民 — 変動する世界 第1回 マイノリティを語る — イタリアとフランスのいま」立命館大学国際言語文化研究所連続講座、2016年10月7日、立命館大学衣笠キャンパス

Kiyoko ISHIKAWA, « Qu'est-ce qu'un écrivain algérien ? Assia Djébar vue par Kamel Daoud », 30^e congrès mondial du CIEF, 2016年5月28日、Saly-Portudal (Sénégal)

石川清子「フランスのマグレブ系移民：憎しみや服従から遠く離れて—はざま、亀裂としての郊外を読む」, シンポジウム「現代世界 — 欧州・中東 — を《文学》から考える」, 2016年3月19日、京都大学吉田キャンパス
石川清子「アジア・ジェバールとフランス語アルジェリア文学」立教大学フランス語フランス文学会第4回大会、2015年6月27日、立教大学

石川清子「“アルジェリア”作家アジア・ジェバール追悼とその反響」中東現代文学研究会例会、2015年6月21日、早稲田大学

Kiyoko ISHIKAWA, « Ma rencontre avec l'œuvre d'Assia Djébar et la traduction en japonais », Journée d'étude l'œuvre d'Assia Djébar : dans la langue de l'autre, 2015年6月13日, Centre culturel Algérien à Paris

石川清子「パリのなかのマグレブ—文学・音楽・映像作品におけるその表象」, マグレブ文学研究会例会、2015年3月29日、筑波大学東京サテライト

石川清子「ダリダ、アイシャ、ズイーナ、ヤミナ — 娘たちの母、母たちの祖国」, 中東現代文学研究会、2015年3月27日、鹿児島大学

Kiyoko ISHIKAWA, « *La Soif* d'Assia Djébar : roman comme jeu-défi ou naissance de l'écrivaine », Assia Djébar : Le parcours d'une femme de Lettres. Littérature, résistance et

transmission. Colloque international, 2014年5月6日、オラン第2大学(アルジェリア)

〔図書〕(計 2 件)

中東現代文学研究会編、『中東現代文学選 2016』, 2017、392p、石川清子「ヤミナ・ベンギギ『移民の記憶』抄訳と解題」, pp.339-362。

阿部賢一、石川清子、土肥秀行他 21 名『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち』青月社、2014、247p、石川清子「アジア・ジェバール—アルジェリア人がフランス語で語ること」, pp.22-29。

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

国際シンポジウム「アルジェリア文学、しかなぜ？」東京大学本郷キャンパス、2017年3月25日～26日。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川 清子 (ISHIKAWA, Kiyoko)
静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授
研究者番号：30329528

(2) 研究分担者 なし

(3) 連携研究者 なし

(4) 研究協力者 なし